

# ふるさと奥尻通信

平成24年4月9日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭語

春は巣立ちの季節。飛び立った若人が、大きくなって帰ってくる日を夢見ながら、日々の暮らしを続けます。旅立ちの日、「サヨナラだけが人生じゃないさ」。逝った恩師の柔和な顔が忘れられない。

## 特集 大いなる飛翔 —オオワシとオジロワシ—

毎年雪の降る頃になると奥尻島の海岸線に現れるオオワシ、オジロワシ。どちらも国の天然記念物であり、また絶滅が心配されている鳥です。やや時季を過ぎましたが、今号では奥尻の冬の名物といえるワシについて紹介したいと思います。

オオワシは、全長(嘴の先から尾の先までの長さ)が約90~100cm、翼開長(翼を広げたときの幅)が220cm~245cm。成鳥では額、肩、脚の付け根、尾が白く、その他の部分は黒く、嘴と目元、脚が黄色いのが特徴です。白と黒のコントラストがはっきりしているため比較的見つけやすいと思います。若鳥では額や肩の白い部分がないのでオジロワシと似ていますが嘴が太いので少し慣れればすぐに見分けられるようになります。飛んでいるときは翼の前側と脚の付け根から尾が白く見え、黄色く太い嘴も目立ちます。オジロワシよりも尾が長く見え、翼の後ろ側が丸く膨らんで見えます。

オジロワシは全長約85~95cm、翼開長200~230cm。体全体が褐色で名前の通りに尾が白く、嘴と脚は黄色。若鳥は嘴が黒っぽく尾の白さも目立ちません。見た目はオオワシよりも地味な印象で、木の多いところにとまっていると見付けにくいです。飛んでいるときは全体が褐色で尾の白さがよく分かります。翼の形が四角く見えるのも特徴で、若鳥では白い尾に褐色の縁取りがあり、翼や腹回りに白いまだら模様が見えます。



オジロワシの成鳥(長浜)



オオワシの飛翔(左・中央:長浜、右:東風泊)

生態についてはどちらも魚を主食にしているので海岸近くにいることが多く、大きな岩の上や道路沿いの崖上の枯れ木などによくとまっています。島内では鍋釣岩や大力カリ石、球浦や赤石、長浜の崖の枯れ木を見て回ると良いでしょう。宮津弁天、松江港、屏風立岩、幌内、滝の瀾などでも見たことがあります。期間としては12月から翌年3月くらいまでがいいようです。

島には他にもミサゴ、トビ、ノスリ、ハヤブサなどもいます。この中でも大きいミサゴやトビでも全長60~70cm、翼開長150~170cm程度ですのでワシと比べるとかなり小さく見えます。ノスリやハヤブサはカラスと同じくらいの大きさです。

関西では、毎年冬になると「オオワシが琵琶湖にやってきた」とTVや新聞で話題になり、週末にはカメラや望遠鏡が並んでいる光景がみられます。こちらに来てびっくりしたのはワシを見に行っても人に会わないということでした。長く住んでいる人に見れば珍しくも何ともないのかもしれませんが。島の自然が豊かな証拠なのかなと感じました。

まだ見たことのない方は通勤や買い物の途中で少し車を停めてみてください。きっとその大きさに驚くことでしょう。



オジロワシの幼鳥(長浜)

翼下面と腹回りの白斑、尾に褐色の縁取りがあるのが特徴。嘴は黄色くなりかけている。オオワシと比べると尾が短く、翼全体が四角く見える。幼鳥とはいえ、飛ぶ姿は雄大だ。

オススメ品! <連載> 奥尻島・今月の逸品 第1回 BBQ用焼き台 推薦の品!

<連載> 奥尻島の石仏は、今後不定期連載とします。

新連載として、奥尻島で見られる生活道具やちょっとした一品について、やや詳しく紹介するコーナーをスタートさせます。第1回目は、やはり島民の親睦に欠かせないバーベキュー(BBQ)用の焼き台です。奥尻では一家に一台と言っても過言ではないかも?

春から秋まで、島内いたる所で煙があがり、食欲をそそる良い香りがします。ケンミンショーで、「奥尻島民は、何かあると、いや何もなくてもBBQが大好きである」とそのうち紹介されそうな勢いです。筆者の昨年の経験で言いますと、少なくとも月1回、通算で5回以上は野外で炭火焼き料理を楽しんでいます。そして毎回活躍するのがこの焼き台な訳です(写真のは某委員会所有)。

実は、この焼き台は手造りなのです。ドラム缶を半分に切って、脚をつけてあります。さらに胴に鉄筋を渡して金網を載せられるようにしてあります。ひと工夫として、炭をおこしやすいように内部に金網を敷き、燃えた灰が上手く分離して落ちようになっているのです。本体には四方に通風口が開けられているので、最初に少し扇げば後は自然に良く燃えます。

さて、この焼き台で何を焼くか。春はなんとと言っても「サクラ貝」。さらに「キトビロ」(島特産のアイヌネギ)、笹の子やらの山菜も乗ければまたよし。豪快にイカをポンっと乗けてもOK。夏は祭り会場で「奥尻和牛」の炭焼きに、島のアスパラをバラバラとトッピング。後は「奥尻米」(ふっくりんこなど)に「奥尻ワイン」の赤で乾杯!(ああ、夏が楽しみだ)。



冬のスキー大会でも大活躍



春の味覚サクラ貝

月刊 奥尻のつり 4月号

春の釣りシーズンが始まります! 月末から5月連休にかけてが一番のシーズンで、春の釣りフェスティバルも開催されます。4月はその予行といったところでしょうか。また、海マスやサクラマスを手釣りで釣れるシーズンでもあります。無縁島海岸ではかなりの本数が釣れていますよ。筆者は慌てたせいで目前でバラして悔しい思いをしました。



奥尻コシなんだろう? 第1回

町役場の角になにやら切り株みたいなものが埋まっています。ちょうど丸太を輪切りにしたもののように見えます。はて、これはなんだろう?

ヒント:隣には電信柱が立っているので、それに関係するものかな?

答えは来月号で!



きらるもし地取被 よ意しあ提減明し興んから当し長しでうま災  
た、こ、よで材害昨う見てつ言の上たの、ら生日まはたもどしか三  
い有と全うのさ復年でときは復さ。経木は中ましじの元高たら三月  
も意と国。参れ興度すしたも、興ん中験元安継でためで気齡。一十一  
の義なか奥考、のは。て立のやでの者さ達が数。参、大者奥年一  
でなるら尻にそ先全 受場のや行一もとんさ行度ま加半会対尻の日は東  
す発での島なの進国 けか、衝う被、しらんわにた者旗一象町追は東  
。信し注はつ成事か 止ら現撃べ災商てが、れわ、全をがので悼日本  
をよ目、た果例ら めの实的き前工提被明、た九員掲開一は日本  
しうをこはと、 てか集のと被し津 れ実直はと三長し・さ波島か黙、れつちな大  
い め先で災て波 たな視 の割のま復 館から禱町まより震

東日本大震災一周年 奥尻より中継される

今号の特集は、奥文研の小林会員が調査した報告を元に作成しました。とても良く撮れた写真だと思います。感謝感謝。先の大震災から1年が経ちまして、自己防衛の必要性を再認識できたと思います。奥尻は2度経験済みですから、良い手本と言えます。3月、4月は離任・赴任で島中ざわざわしていますね。前途洋々たる若人の未来に乾杯!(島の応援団員しんた)。

新巻之記録 (編集後記)

員えこ...例いこ皆  
会しん一我奥奥歴神えたとさん  
へまながが尻尻代威ばい、ん  
おす疑ん家音の人フ沼:こちが疑  
電問じの頭カのエはとよ問  
話おにヤルつレ元リどあつ間  
く気学もしてイ祖!こりと感じ  
だ軽芸つつ2ははのにま調  
さに員こはつ何だ名あるせべ  
い教がどあ種!前るんてて  
育お?こる類れは?かもい  
委答?????????らる

なんでも調査隊!



第二大函丸・離任者の送別 昭和51年